

留学生が語る、あんなことこんなこと

SPECIAL!

2014 / 冬 / No.96

来ぶらり

留学生さん いらっしゃい!

学習院大学で大学生活を送る留学生のみなさんに
集ってもらい、「本」や「図書館」をテーマとした
座談会を実施しました!

法学部法学科

ザイベルト・
ザスキア・カタリナさん

日本に来た理由
6年前に日本に来て…
もう一度、楽しみに来ました!

ザスキア

文学部日本語
日本文学科

ユキ
コスギ・
ヤーダーさん

日本に来た理由
きっかけはアニメです!
「NARUTO」が女子き。

ユキ

経済学部経済学科

ポンプルテス・
ガエタン・
ガイタさん

日本に来た理由
日本は、楽しいところが
いっぱいだから!!

ガイタ

文学部哲学科

コウ・カシュンさん

日本に来た理由
東洋系の美術、
工芸が女子きなので!

コウ

ジス

経済学部経営学科
ハン・ジスさん

日本に来た理由
韓国と日本は、
緑のある国だから。

韓国

ドイツ

タイ

中国

日本
(& イラン)

フランス

カズ

理学部物理学科
ガラムカリ・
和さん

※留学生ではありません。
日本代表として参加
してもらいました!!





テーマ1

日本の好きな本・好きな作家について教えてください。

司会：こんにちは。さっそくですが、みなさん本は読みますか？

コウ：日本語や文化の勉強になりますから、もちろん読んでいます。哲学科なので、日本の哲学書も一応、読んでいます。ドイツとかフランスの哲学書を日本語で読んだりもします。

ザスキア：日本の作家だったらドイツでは村上春樹さんがすごく有名で私も好きです。たぶん村上春樹さんの本は日本人じゃない人にもすごくわかりやすい話なんじゃないですか。例えばよくジャズ音楽が描かれていますが、ヨーロッパとかアメリカではジャズは人気がありますから、あとは、よしもとばなさんも人気があります。

ガイタ：村上春樹さんの作品は読んだことないんですけど、友達でかなりはまっている人はいます。村上春樹さんが書いている独特の世界とか雰囲気が入っているんだと思います。

ユキ：私も村上春樹さんは読んだことがないです(笑)。でも、村上春樹さんの訳した本はよく売られていて、たぶん人気があると思います。あとタイで人気があるのは探偵の本です。

コウ：探偵小説？

司会：ミステリーみたいな？

ユキ：はい。

一同：へえ〜

コウ：たしかに探偵小説が好きな人はいっぱいいます。

ジス：あ〜！東野圭吾とか人気があります！どお？

コウ：読んだことがあります。容疑者Xとか！

ジス：はいはい、映画化された！

コウ：そう、そういうのは読んだことがあります。あと知り合いの友達は金田一シリーズのファンで、本棚の写真を見せてもらった本棚いっぱい金田一の本がありました。

ジス：韓国では三島由紀夫とか三浦綾子の本もけっこう出てよ。

コウ：あやかしとかファンタジーと言っていかかわらないですけど、私は京極夏彦の本をすごく読んでいます。でも、あれはすごく漢字が難しい。普段の生活では使わない名詞とか単語が

次々と出てくる。最初はちょっとびっくりするかもしれないけど読んでるとだんだん楽しくなります。

司会：それはすごいですね。あと、ジスさんは先ほどから日本の作家が次々と出てくるようですが、日本に来てから知ったのですか？韓国でも有名なのですか？

ジス：あ〜…向こうでも知ってたね。

司会：韓国語に翻訳されて売られているの？

ジス：はい！三島由紀夫とかけっこう韓国では人気あるんで。

司会：そのあたり他の国ではどうですか？三島由紀夫ってご存知ですか？

一同：いやあ…(笑)

司会：カズさんはどんな本を読んでいるの？

カズ：う〜ん…僕はですね、実は日本の小説はほとんど読まないです。読むのはほとんど外国の小説ですね。もちろん、日本語に翻訳されたものですけど。今まで僕が読んで中で一番いいなと思ったのが、アメリカの国語の先生が書いた本で『アルジャーノンに花束を』っていう本です。大学生にはけっこうお勧めの本です。

ガイタ：知らなかったけど、面白そうだね。

ジス：日本ではあまり海外の作品は読まれていないイメージが強いので、意外ですね。海外の本で日本語訳で読んでみたいと思っても、訳されていないことがけっこうあって。

司会：それはあるかもしれませんね。みなさん本をたくさん読んでいて、すごいですね。



テーマ2

母国の図書館と日本の図書館の違いは？

ザスキア：そうそう、ドイツの図書館は誰でも入れる。

司会：え？大学図書館も？

ザスキア：うん。大学も。

一同：へ〜!!

ザスキア：だから日本みたいに学生証で入ることはしないです。

司会：誰でも入って、貸出もできる？

ザスキア：学生証がないと貸出はできないですけど、もともとみんな本はあんまり借りない。ドイツではやっぱり図書館の中で読むのが中心。

司会：韓国もフランスも図書館には誰でも入れるようなイ

メージだけどうですか？

ジス：ああ〜。韓国はだめです。

ガイタ：フランスは一応だめなんですけど、普通に入れるって状態です(笑)。本を借りるときに学生証を見せるので、ドイツと同じですね。

ザスキア：あと、ドイツでは荷物を持ったまま図書館には入れないです。禁止されています。ジャケットもだめです。

一同：ええ〜!!

司会：ポケットがあるから？

ザスキア：そうです。

ジス：何故ですか？

ザスキア：本が盗まれないように(笑)。あとは、雨が降っていたらジャケットが濡れて本も濡れるから。

ガイタ：へ〜…すごい。さすがドイツ!!(笑)

司会：設備も同じ感じですか？

ジス：日本の図書館は座るところが少ないんじゃないかなって思って。韓国ではみんな図書館に行って勉強するので、もっと広いです。

ガイタ：確かに。

カズ：僕は高校生の時よく図書館で勉強してんですけど、開館して2時間くらい経って図書館に行くともう席がなかったりして。だから、日本の図書館の席がもっと増えたらいいなと思います。

ジス：そういえば韓国は24時間開館が多いです。

一同：え〜!!

ジス：試験中は24時間開館しています。週末だけ22時まで。

ガイタ：すごい!!

ザスキア：ドイツも24時間です。例えばバイエルン州ではスーパーは20時までなんですけど、大学図書館は24時間です。

一同：ええ〜!!

司会：スーパーより図書館を使うんだね、すごい！

ジス：あ、そういえば、学習院大学は図書館の中で水を飲んだりできないじゃないですか？

ザスキア：はい。ドイツでも禁止されていますよ。

ジス：あつ！飲めないんですか？韓国はできます。

一同：えっ? いいの？

ジス：飲み物だけオッケーです。

コウ：なんか危くない？飲みながら本にこぼしちゃったら…

ジス：あ、でも、みんな席に座って本は読まないから。勉強するだけ。

コウ：確かに。

司会：タイではどうですか？

ユキ：タイはほとんど日本と同じですが、私の大学はリラクスのためにソファや枕もあります。

ガイタ：寝られるの!?

ユキ：休みながら本を読めます。

ジス：いいですね。うらやましい!

司会：寝ちゃう人はいない？

ユキ：けっこういます。(笑)

司会：話は変わりますが、図書館がもっとこうなったら良いとかありますか？

ジス：もっと席が広がったらいなって思います。あとちょっと建物が古い…

一同：あ〜

ジス：それと試験中に開館時間が長くなったらいいなって思います。

ザスキア：それはそうですね。

カズ：日曜日とか学校が全部閉まっちゃうので、そういうときに図書館が開いてないかな〜って思います。

ジス：平日も9時くらいに閉まっちゃうじゃないですか。

ザスキア：なんかここで働いている人の前ですごく悪いんですけど。(笑)

一同：(笑)

ザスキア：今、思い出したのが、ドイツでは24時間開いている図書館がけっこうありますが、図書館のスタッフは夜の20時までで、その後の時間は大学生が図書館で働いています。

カズ：なるほど!



日本の学生へ…語学取得のアドバイスを!!

ガイタ：言語ってやっぱり楽しんで覚えるのが大事だと思うので、英語で映画とか観て、最初は聞き取るみたいな。日本人の方はよく、英語がすごい書いてテストで満点とか取るような人でも、その割には話せないという…言語は話せなければ意味がないです。授業ではどうなんですかね。会話はしないんですか？

司会：授業で会話はしないことが多いですね。

ジス：でもアジアの国はほとんどそうだよな？

ユキ：そうですね。まあ、書くだけ。

コウ：そうなんですけど、ただ、気にしているか気にしていないかということじゃないですか？

司会：気にするって？

コウ：中国では、みんなあまり気にしていない感じで、発音はまあ中国風ですけど普通に英語をしゃべっています。例えば上

海は外国人が多いので、自分が勉強したことが合っているかどうか、身近にいる人で確認したり比較することができますから、上手になりやすいのかもしれないです。

司会：恥ずかしがらないで話した方がいいってこと？

コウ：う〜ん…恥ずかしがるっていうか…もう本当に気にしていないです。恥ずかしいと思ったら、今はともかくこれから仕事ができなくなって思うし。コミュニケーションを取った方が、普段の生活も仕事もやりやすいからですね。

ジス：今あまりうまく話せなくても、自信を持って話せばいいと思います。あとわからないってことを恥ずかしがらずに! 当然だから! 外国語だし。

ザスキア：そういえば日本でコミュニケーションの授業があったんですけど、コミュニケーションの授業なのに全部日本語に翻訳している先生がいて、授業の意味がなくなりました。日本で気付いたことなんですけど、日本人って英語のうまい人でも恥ずかしがってあまり話さない。私もそんなに英語がうまくないですけど、あまり気にしてません。日本語もそうですが、初めて日本に来て3ヶ月間くらいずっと会話が出来なかったんですけど、やっぱり思い切って話し始めた時からだんだんよくなっていったので、話してみないとわからないです。

ガイタ：あと、留学することですね。留学したらもう話しかけないから。(笑)

ユキ：私の場合は、漫画とかアニメで覚えましたが、絵がありますから、日本語がわからなくてもなんとなくわかります。あと、歌を聴きました。

一同：あ〜! 歌!

ユキ：はい。言葉で歌を歌うと覚えやすくなる。

ガイタ：そう、楽しみながらやるのが大事だよな。

コウ：私の場合は、脳内シミュレーションみたいな感じで、自分で会話を作って短時間で練習しています。さすがに毎回、日本人を探して会話することはできないから、頭の中で自分で会話をするんです。人って何かを上手になろうとすると、やっぱりそう



やって練習を積み重ねることによって上手になっていくので、妄想を活用して上達するようにしています。

司会：想像会話ですか、おもしろいですね。

コウ：いやいや! (笑)

ジス：私は、寝る時にラジオのニュースを聞きながら寝ると、その内容を覚えています。

一同：え〜!! すごい!

ジス：寝ている間は記憶力が上がるって前にニュースで言ってきました。日本語だと、NHKとか、スマホのアプリがあるので、すごくきれいな発音を聞けます。

司会：みなさん様々な工夫をされているんですね。今日は、いろいろな話が聞けました。みなさん、ありがとうございました。

座談会を通じて、作品への感覚や図書館の使い方、語学学習方法など、新たな視点を発見することができたのではないのでしょうか。みなさんご協力ありがとうございました!

留学生が語る あんなことこんなこと



「ムーミンとフィンランド」～トーベ・ヤンソン生誕100年～

2014年11月18日(火)の4時限目に、大学図書館セミナー※「ムーミンとフィンランド～トーベ・ヤンソン生誕100年～」を開催しました。フィンランド出身の奥田ライヤ先生(東海大学 非常勤講師)を講師としてお招きし、ムーミンの作者であるトーベ・ヤンソンの生い立ちや当時のフィンランドの状況を踏まえながら、「ムーミン」がフィンランドの地でどのように生まれたのか、また、フィンランド人にとって「ムーミン」がどのような存在であるのか、といったお話をさせていただきました。当日は会場に入れないほどの大盛況でした。ここでは講演概要と関連資料をご紹介します。

※大学図書館セミナー：特定のテーマについて専門家に講演していただくセミナーで、年2回(春・秋)実施しています。
「方言」「恋愛学」「選宮」など、その時々話題となっているテーマを取り上げ、毎回好評を得ています。

日本での「ムーミン」と フィンランドでの「ムーミン」

日本でのムーミンは主にテレビアニメでのイメージが強く、様々な関連グッズが発売されるなど「かわいいキャラクター」として一般的に捉えられていますが、フィンランドでのムーミンは原作小説のムーミンを指すことが多く、少なくとも「かわいい」というイメージではないようです。ちょっと驚きですね!?

講師の奥田ライヤ先生は、
日本のムーミンを初めて見て、日本において
ムーミンがかawaiiと言われる
理由があかったそうです!

「ムーミン」のキャラクター

ムーミンに登場する多くの魅力的なキャラクターたち。実は、作者であるトーベ・ヤンソンの家族や周囲の人々がモデルとなっているのだとか。お気に入りのキャラクターのモデルがどのような人物だったのか、調べてみるのも面白いのではないのでしょうか。



1. ムーミンを生んだ芸術家トーベ・ヤンソン
富原真弓/著;芸術新潮編集部/編 新潮社
【大学図・1F開架 949.8A/J23t】
2. トーベ・ヤンソンとガムルムの世界：
ムーミンとロールの誕生
富原真弓/著 青土社
【大学図・1F開架 726A/J23t】
3. ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソン
トゥーラ・カルライネン/著 河出書房新社
【大学図・1F開架 949.8A/J23k】
4. ムーミンババの「手帖」：
トーベ・ヤンソンとムーミンの世界
東宏治/著 青土社
【大学図・1F開架 949.8A/J23a】

原作小説「ムーミン」

原作のシリーズ小説は全部で9作品に及びますが、その時々フィンランドの状況が色濃く反映されています。戦争中の暗くどんよりとした雰囲気、キャラクターたちがドタバタ劇を繰り広げる明るく楽しい雰囲気... フィンランド独特の時代背景がムーミンを産み出していたのです。



全てトーベ・ヤンソン
著書(講談社)、
大学図・1F開架に
所蔵しています!

トーベ・ヤンソン/著

1. ムーミン谷の彗星	下村隆一/訳	Kodansha/や16/9
2. たのしいムーミン一家	山室静/訳	Kodansha/や16/10
3. ムーミンババの思い出	小野寺百合子/訳	Kodansha/や16/11
4. ムーミン谷の夏まつり	下村隆一/訳	Kodansha/や16/12
5. ムーミン谷の冬	山室静/訳	Kodansha/や16/13
6. ムーミン谷の仲間たち	山室静/訳	Kodansha/や16/14
7. ムーミンババ海へいく	小野寺百合子/訳	Kodansha/や16/15
8. ムーミン谷の十一月	鈴木徹郎/訳	Kodansha/や16/16
9. 小さなトロールと大きな洪水	富原真弓/訳	Kodansha/や16/17

フィンランド基本情報

フィンランドは、ロシアとスウェーデンの間に位置し、歴史的にも長い間その支配・影響を受けてきました。けれども両国のいずれとも異なる独自の文化が発展し、1917年の独立をきっかけにその特質が国際的に認められるようになりました。

正式国名：フィンランド共和国(スウェーデン・タサヴァルタ)、
通称 Suomi(スオミ)

公用語：フィンランド語・スウェーデン語
国民の90%がフィンランド語を話し、
6%がスウェーデン語を話す

首都：ヘルシンキ 人口：約543万人

面積：33万8144km²(国土の3分の1弱が氷河圏)

国旗：白地に青十字。青は空と湖、白は雪、
そしてキリスト教の十字を象徴。

日本との
時差：-7時間(サマータイムには-6時間)

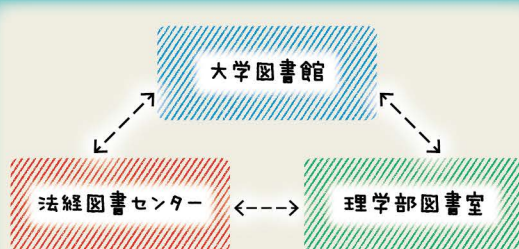


参考文献：1.『地球の歩き方A29 北欧 2014～2015年版』『地球の歩き方』編集室編集、ダイヤモンド・ビッグ社、2014年 2.フィンランド大使館、東京 ホームページ 3. Japan Knowledge Libより『日本大百科全書(ニッポニカ)』『国史大辞典』『フィンランド』(参照日2014.11.15)

「どこでも返却」サービス、利用していますか？

今年の6月より、大学図書館・法経図書センター・理学部図書室の貸出資料を、所蔵館にかかわらず3館どの館でも返却できるサービス(3館どこでも返却)を開始しました。とても便利なこのサービス、是非活用してください。

- ・対象資料以外については、従来どおり所蔵館に直接返却してください。(例：文学部学科図書室の資料は、直接学科図書室に返却してください)
- ・図書返却ポストへの返却は、回収時間により返却処理されるまでタイムラグがあります。お急ぎの場合は、直接所蔵館に返却してください。



わたしの本棚



研究室の本棚の前で



平積みされた本たち

知識としての「本」と物質としての「本」

私の本棚は雑然としていて決して見惚れるようなものではないが、それでよいと思っている。新しい書を並べるとき、どこに置こうか迷ううちに、結局棚の空いているところに、断崖絶壁のように平積んでしまう。全集が1巻も欠けることなく、まささな状態で整然と並んでいるのが完全な本棚だとすれば、不完全である所に愛着がわくのである。

本を所有するということは、書店で買って物質的に所有することではなく、書を読んで

知識を獲得することであると思う。つまり、知識の象徴としての「本」があるだけである。手元にいつも置いておきたい本、というのもピンとこない。そうすると、その時々に興味をもっている「マイブーム」が自分の目の高さのところに、ごそっとかたまっているだけであり、ラインナップはブームが過ぎて替わっていく。そんな調子だから、棚差してるであろう目的の本が、いざというときにはなかなか見つからない。

さて、最近のマイブームは、早川ミステリー文庫。ウィリアム・アイリッシュの『幻の女』は何回目だろうか。読んでいる時は最高におもしろいのに、ストーリーをさっぱり忘れるので何度でも楽しめる。ミステリーに関しては「知識」として消化しない方がよいようだ。

とはいっても、物質としての「本」にも人一倍の愛着があるつもりだ。刷りたての本の匂いは好きだし、心のこもった装丁や魅力的な表紙、フォントの使い方ひとつに感心することだってある。カミさんが本屋だったこともあり、1冊の本を手にとると、それが製本されるに至るまでの作家、編集者の苦労や思い入れみたいなものをよく聞かされる。買って殆ど読まなかった書もあるが、そういうわけで簡単に断捨離というわけにいかない。

そんなわけで、うちの本棚は膨大な数の書がただ雑然と積んであるだけなのであり、私にはそれに対する言い訳もあるのであるが、大地震がきたときも、断崖が崩れなかったのは積み方がよかったのだろう。



理学部物理学科
准教授
井田大車甫先生

最近のお気に入りの本、『裏窓/ウィリアム・アイリッシュ著』です

らい
来ぶらり No.96 2014年12月17日

学習院大学図書館 発行責任者：脇坂 明 編集委員：内藤沙織・正木さと子
1階貸出・返却カウンター：☎ 03-5992-1009(内線 2397) 2階レファレンスカウンター：☎ 03-5992-9249(内線2395・2396)
☎ 03-3986-0221(代表) 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

「来ぶらり」のバックナンバーは
(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>) で公開しています。

